銅賞



「ふたつの麦わら帽子」　早田眞二　㈲早田写真館（北海道）

■選評

「これから２人で、愛情をさらに耕し育てて生活していこう」という声が聞こえてきそうな、ストーリー性を感じさせる婚礼写真の秀作です。黄金色の畑だけでなく緑色の木々があることによって、画面が締まって見える構成力も高く評価されました。さらに、２人の笑顔がとてもすてきで、あたかも１本の植物が上に向かって伸びていくようなポージングが、明るい未来のイメージを想起させる点も婚礼写真の表現として優れていると思いました。婚礼写真のありきたりのポージングではなく、「この農家で生活を営むのかな？」「豊かに実る畑を作りそう！」なんてイマジネーションをかき立て、見る者の心にも幸せを運んでくれるような、オリジナリティに富んだ１枚です。

■喜びの声

富士フイルム営業写真コンテストにて銅賞をいただき、驚きとともに心より感謝申し上げます。８年前には息子・圭佑が銅賞を受賞し、帝国ホテルでの表彰式に付き添いで参加いたしましたが、まさかこの歳になって自分自身が銅賞をいただけるとは思っておらず、大変光栄に感じております。

本来であれば収穫前の麦畑を撮影に使わせていただくことは難しいのですが、快く貸してくださった農家の中村様に深く感謝申し上げます。

お客様から「麦わら帽子と麦畑で写真を撮りたい」というご要望をいただき、その願いがかなえられたことをうれしく思います。黄金の麦畑の中で麦わら帽子がアクセントとなり、オホーツクの大自然の中でのウエディングドレス撮影を表現できたことを心から嬉しく思います。

季節、天気、光、風――その全てがこの作品をつかさどり、ご新婦様の想いと重なった瞬間が写真に宿ったのだと感じています。息子も大変喜んでくれました。

そして今回のご新婦様のご実家が美幌であることも、この作品に特別な意味を添えてくれました。オホーツクの自然に包まれた故郷で、大切な瞬間を写真として残せたことを嬉しく思います。

多くの先輩方からのご指導、北海道オホーツクの写真仲間、そして「写真の良さを伝える会」の皆様の支えがあってこそ、この作品が生まれました。心より感謝申し上げます。

（制作ラボ：㈱ラボネットワーク）



銅賞



「同じ目線で」　佐々木文徳　㈱ハートグラフ（岩手）

■選評

カメラマンの技術と自然の光が共鳴して優れた画面を生み出し、見る者の心をふわっと優しくさせてくれる見事なロケーション家族写真です。切り株に座らせたワンちゃんと口を寄せるご主人、ギリギリ顔が見える奥様の角度など、卓越した画面構成力が光っています。その絵作り力を引き立たせているのが、背景と人物を分離させ、ワンちゃんの毛並みなどディティールまでくっきりと、被写体を浮き出させているライティング技術の高さです。バックに、少女漫画で美しい瞬間を際立たせるために使うキラキラエフェクトのような微細な点が散っていますが、この自然の妙による効果も写真の魅力を引き上げています。仕上げも上手で、総合的に優れた１枚です。

■喜びの声



このたびは、銅賞という栄誉ある賞をいただき、心よりうれしく思っております。
今回の作品は、私自身が新たな撮影場所として開拓してきた「Ownlaho（オウンラホ）」で、初めてお客様を撮影した際の一枚です。
近年、ロケーション撮影を行うカメラマンが増え、撮影場所そのものに特別感を出すことが難しくなってきたと感じていました。そこで、自分たちだからこそ提案できる撮影体験をつくりたいという思いから、約 1000 坪の土地を購入し、整備を続けてきました。
公園などでの撮影とは違い、Ownlaho では周囲を気にせず、家族みんなが自由に過ごすことができます。そんな場所での最初のお客様が、ワンちゃんと一緒のご家族でした。
撮影当日は、本来望んでいた美しい西日には恵まれず、小雨も降り始めました。しかし、その雨粒を生かしてライティングしたことで、思いがけず印象的な空気感をつくることができました。
この作品で表現したかったのは、ワンちゃんも大切な家族の一員であるということです。同じ目線まで顔を近づけ、優しく見つめるご夫婦の姿から、その愛情が伝わればと思いシャッターを切りました。
自分たちの手でつくり始めた場所での最初の撮影が、このような評価につながったことは、これからOwnlaho で写真を残していくう上でも大きな励みになりました。
これからも場所に捉われず、お客様の「こんな写真を残したい」という思いに真摯に向き合い、その想像を上回る提案と写真を届けていきたいと思います。
（制作ラボ：㈱プロカラーラボ　イーストラボ）

銅賞



「満面の笑み」　原 健一郎　㈲フォトスタジオ原（福島）

■選評

卒業証書を掲げて、心からうれしそうな笑顔を見せる生徒を写し出したスクール写真です。構図とシャッターチャンスも良く、“卒業という節目”を印象的に表現しています。被写界深度を巧みにコントロールし、被写体を際立たせているため、見る者の視線がまず生徒の表情に、卒業証書に、そして背景に行くような流れを作り、視線誘導ができているところにも優れた技術力が見受けられます。人物のライティングと背景のライティングをしっかり分けているので、被写体が浮き出て見え、奥行きも感じさせ、完成度の高さにつながっています。ポージングをしていると思いますが、自然な笑顔を引き出している点から、コミュニケーション力の高さも評価されました。

■喜びの声

憧れであります、富士フイルム営業写真コンテストにおいて、銅賞に選出していただき誠にありがとうございます。
初めての上位入賞、今まで味わったことがないうれしさで気持ちがいっぱいです。また同時に身の引き締まる思いでもあります。
今回銅賞をいただきました作品は、お子様たちの節目節目を大切にされて、必ず記念写真を残されているご家族の末っ子の卒業記念です。当店の黒板のボードの前で、卒業式を終えたばかりの熱を大切にし、「本日、卒業しましたっ！」という元気の良さと満面の笑顔を撮影しました。撮影中、常にご両親の笑い声がスタジオ内に広がっており、いつもと変わらないにぎやかで楽しい空間でした。
最後になりますが、現在の自分があるのは、写真館の仕事のやりがいを教えてくださった恩師の川地先生、川地会、福島県写真館協会やPGCといった切磋琢磨し合える皆さんの存在、そしてきれいな写真に仕上げてくださったキングストンの皆様のおかげです。この場をお借りして感謝申し上げます。今まで以上にインスピレーションが湧き上がる環境を大切にし、感性を磨き、お客様とともにすてきな写真を作り上げられるように精進してまいります。
ありがとうございました。
（制作ラボ：㈱キングストン）



銅賞



「ポカポカ家族」　志賀 大　フォトスタジオデイズ（福島）

■選評

何よりもカラーコーディネートの素晴らしさに目を奪われる、仲良し家族のクリスマス風景を写し出した作品です。色彩設計と絵作り力に優れており、画面全体の完成度が高い１枚となっています。背景の深めのオレンジ色と洋服の赤、帽子の白、この３色でまとめ上げてることで統一感のある見やすい画面構成となり、だからこそ、この家族の温かな愛情が浮き上がって見えるようです。人と人の間にある深い思いを上手く表現しています。空間デザインやファッションコーディネート分野などでは「3色の配色はまとまって見える、統一感を感じる」という説があるようです。色彩効果を取り入れた、３色のコントラストが成功を収めた力作です。

■喜びの声

このたびは栄誉ある富士フイルム営業写真コンテストにて銅賞をいただき、驚きとともに嬉しさで胸がいっぱいです。
今回の受賞作は、おそろいの赤いニットを着てぎゅっと抱き合うご家族の笑顔と、その場のあたたかい空気感をそのまま残したいという一心でシャッターを切った一枚でした。
受賞をご報告した際、まるでご自身のことのように一緒に喜んでくださり、「この仕事をしていて本当によかった」と心から感じました。大切な記念の撮影をお任せいただいたご家族の皆様に、深く感謝申し上げます。
今の自分があるのは、基礎から育ててくださった植村栄一先生、地元に戻ってから温かくも厳しくご指導くださった伊藤正春先生、これまで出会った写真業界の諸先輩方や仲間の皆様、そして美しいプリントに仕上げてくださったプロカラーラボの皆様のおかげです。最後に、いつも隣で支え、たくさんのアイデアをくれる妻にも深く感謝しています。
この貴重な経験を糧に、これからもご家族それぞれに寄り添い、何年たっても見返すたびに心がほっと温かくなるような写真をお届けできるよう精進いたします。
本当にありがとうございました。
（制作ラボ：㈱プロカラーラボ　イーストラボ）



銅賞



「76才、今日もチャーミング！」
植田朝子　フォトスタジオ久良多（栃木）

■選評

シニア世代の写真に見えない、可愛らしい表情とポーズが魅力の大人ポートレートです。見ているとじわじわと、非常に計算されて撮られた写真であることが分かります。明暗のグラデーションを駆使した背景、人物の外形線もきれいに整え、見る者の視線が被写体に集中する画面構成です。ポージングも卓越しており、表情や動きに疲れが出ないよう上手にコミュニケーションを取りながら“その一瞬”を捉える技術力にも目を見張るものがあります。シニアといっても心が若い方も多いので、キュートなポーズを喜ばれる場合は、定番のシニアフォトとは違うチャーミングな写真を提供するのも、これからの写真館の在り方ではないかと考えさせられた1枚です。

■喜びの声

このたびは栄えある銅賞をいただき、誠にありがとうございます。大変うれしく、今後の励みにいたします。

受賞作品のお客様は、ちょうど10年前、退職という節目の年に、結婚記念日の撮影で、ご夫婦で初めてご来店くださいました。

それ以来、毎年撮影に来てくださり、ご主人がご病気になられてからは、奥様お一人で撮影にいらしてくださいます。いつも笑顔ではつらつとされていて、お会いするたびに元気をいただいています。

この写真は、夫と交互にいろいろと撮影する中で生まれた一枚です。明るくチャーミングなお人柄を表現できたらと思い、ポーズや光を考えながら、構図を意識して撮影しました。

大人になると写真館から遠ざかってしまう方が多い中、シニア世代のお客様が、毎年欠かさず撮影に来てくださる。それはとてもすてきなことだと感じています。お客様も私達も、その時間を楽しんでいる実感があり、うれしく思います。大人のポートレートを撮影する方が、もっともっと増えるよう、その楽しさを伝えていけたらと思います。

最後になりましたが、いつもご来店くださるお客様、たくさんの学びとご指導をいただいている辻文作先生、福森義宏先生、共に学ぶ仲間の皆様、今までに出会った全ての方に、心より感謝申し上げます。美しいプリントに仕上げてくださるプロカラーラボの皆様にも心より御礼申し上げます。そして私を支えてくれる家族にも感謝を伝えたいと思います。ありがとうございました。

（制作ラボ：㈱プロカラーラボ　イーストラボ）



銅賞



「永遠のほころび」

高橋真緒　㈱デコルテ　スタジオ AQUA 大宮店（埼玉）

■選評

新婦の表情がかわいらしく美しい、大胆なトリミングでありながら“ウエディングフォト”としっかり分かる、すてきな写真です。おそらくカメラマンは、新婦の笑顔がとても魅力的だと感じて、「一番の笑みを撮影したい」とシャッターを切ったのではないでしょうか。そんなカメラマンの情熱も感じられる1枚です。レースのドレス手袋をあえて画面に入れている点も、写真を立体的に見せ、また、新婦の笑顔を垣間見せることで、より大きな歓喜がまだそこにあると思わせる、絵作り力も見て取れます。自然光で撮影し、ナチュラルな笑顔になっている点も評価を高めました。若い女性が「こう撮ってほしい！」と思う印象的な婚礼写真になっています。

■喜びの声

このたびは、栄誉ある富士フイルム営業写真コンテストにおいて、銅賞という素晴らしい賞をいただくことができ、心よりうれしく思っております。

この写真の狙いは、「瞳で魅せる幸せ」でした。どこまでも透き通っていきそうな瞳をどこまで主役にしつつ、くるんと上に跳ね上がる後れ毛、純真無垢を象徴するグローブを一緒に写すことでより幸せな気持ちを際立たせられるよう意識してみました。

新郎さんとのエピソードを話していただきながらシャッターを切ったこの一枚。幸せそうな新婦さんの瞳に惹かれて撮影した写真です。私が普段撮影で意識しているのは、「いかにお二人らしさを残すことができるか」です。だからこそ、新郎さんのことを考えている「新婦さんらしい新婦さん」を残すことができたこの写真を評価していただけたことが、何よりうれしく感じています。

最後になりますがこの場をお借りして、私がどんなに悩んでいても毎日笑顔で帰りを待ってくれていた家族、そして写真を一から教えてくださった店舗の先輩方に、心より感謝申し上げます。機械やSNSを通じて連絡も顔を見ることも容易になったこの時代に、対面でお会いして、言葉を交わしながら撮影する大切さを改めて実感することができました。これからも、お二人だけの幸せに優しく寄り添い、写真に残せる存在でありますように。

本当にありがとうございました。

（制作ラボ：㈱ラボネットワーク）






表紙


2　1


4　3


6　5


8　7


10　9


12　11


14　13


16　15


18　17


20　19


22　21


24　23


26　25


28　27


30　29


32　31


34　33


36　35


38　37


40　39


42　41


44　43


46　45


48　47

「継承　おじいちゃんからのメッセージ」　小町剛廣　スタジオモーツァルト（東京）　アルバム

■選評

あるおじいさんの生きざまと家族への温かなまなざし、孫への思いが詰め込まれた「自分史」とも言うべき、優れた大人ポートレートのアルバムです。おじいさんのアップや仕事風景、奥様や孫との写真とともに温かな言葉が添えられ、人柄を感じさせてくれます。ページをめくっていくとラストに「みんなが20歳を迎えた時、おじいちゃんが、旅立っているときは、このページを開いて一緒に乾杯してほしいなぁ。」と、グラスをこちらに向けるおじいさんの写真が現れ、胸を打たれます。多くの写真館で生前に遺影写真を撮りますが、「遺言のようなメッセージも載せた孫に贈るアルバムは新商品になるのでは」と可能性を感じさせてくれた素晴らしい作品です。

■喜びの声

「継承―おじいちゃんからのメッセージ」で入賞をいただきました。まず何より、朝から晩まで働く姿にカメラを向けさせてくださった、曽野秀成さん・華江さんご夫妻に感謝を伝えたいと思います。

被写体は、東京・広尾で青果と鮮魚を商うお店「わかば」のお二人。ひいおじいちゃん、ひいおばあちゃんの代から続くこの店を、お孫さん、ひ孫さんの世代へ手渡すための、いわば手紙のような一冊です。

私のねらいは、継承を“商売の技術”としてではなく“生き方そのもの”として撮ることでした。朝六時、豊洲市場での仕入れから閉店二十三時まで休みなく働く姿。市場では車の鍵をかけない、糠漬けの減り具合でその日の客数がわかる、そんな暮らしの機微。「大丈夫、大丈夫、どうにかなるから」という、親から受け継ぎご自身も口にする言葉。そのたたずまいと、飾らない品を、ハレでもケでもない、間（ま）に在る瞬間として写しとりました。撮りながら、継承とは私が選んだテーマではなく、私自身のことなのだと気づかされました。

苦労したのは、市場・厨房・店先という三つの場所と、多くを語らない秀成さんの言葉を、一冊の中でどう円環させるかという編集でした。

店先で家族を見守るバイマックルの樹のように、お孫さんたちが二十歳になった日、この一冊を開いて乾杯してもらえたら。市井の家業に宿る継承の物語を、これからも撮り続けていきたいと思います。

（制作ラボ：㈱ラボネットワーク）



銅賞



「2人で駆ける」　吉岡純吾　アート工房（石川）

■選評

ドラマチックな風景の中で「お客様が望まれたイメージを形にした」婚礼写真の良作です。夕景の自然光とストロボ光を巧みに操ってバランスを取り、人物と車、背景を一体感のあるライティングで仕上げています。また、色温度のコントロールによって、ドラマのような世界観を表現している点にも技術力の高さが見て取れます。あまり強くポージングしておらず、自然な２人の雰囲気が魅力的です。新郎新婦は恥ずかしがってポーズがうまく決まらないこともあるので、あえてナチュラルな表現にしたことが功を奏した好例でしょう。時間による浜辺の見え方も熟知し、車の撮影にも精通しているカメラマンが演出した、お客様のハートをつかむすてきな写真です。

■喜びの声

このたびは富士フイルム営業写真コンテストにおいて銅賞をいただき、大変光栄に思います。上位入賞は今回で２度目となり、再び帝国ホテルでの表彰式に伺えることをとてもうれしく思っています。

この作品は美しい夕景の中で、新郎新婦のおふたりと大切な愛車がそれぞれ自然に引き立つ１枚を目指して撮影しました。手を取り合い、見つめあう姿から、おふたりらしさまで伝わる写真にしたいと考えました。

撮影当日は苦労した記憶よりもおふたりと一緒に楽しく撮影した記憶の方が強く残っています。こうしてその中の１枚を評価していただけたことを心よりうれしく思います。

受賞を知って真っ先に報告したのは日頃からお世話になっている写真家の関一也さんでした。その後妻にも喜びを伝えました。この作品を撮影させてくださった新郎新婦のおふたり、いつも撮影を支えてくれるスタッフの皆さん、そしていつも私の細かな要望に丁寧に応え、作品を最高の仕上がりにしていただけるフジカラー北陸の皆様に、心より感謝申し上げます。

これからも賞を獲るための写真ではなく、目の前の人にとって大切な１枚を追い続けながら、その先でまた評価していただけるような写真を残していきたいと思います。

（制作ラボ：㈱フジカラー北陸）



銅賞



「わたしらしい成人式」　篠原隆浩　㈱ヤヨイ写真館（愛媛）

■選評

自分の大切なワンちゃんと一緒に「二十歳をお祝い」という、かわいらしい表現の成人写真です。新緑の中で大事な友に成人を報告し、ワンちゃんも「キミが大好き！応援してるよ」と言っているシーンみたいで、ストーリー性も感じさせる絵作り力が秀逸です。逆光を巧みにコントロールして作られた美しいボケと、強い対比を生む緑と赤色の組み合わせによる色彩設計で、被写体を際立たせることに成功しています。また、女性とワンちゃんの穏やかで優しさにあふれた普段の１コマをほうふつさせる、とても自然なコミュニケーションを決定的なタイミングで捉えた点にも技量を感じます。技術力と表現力が高評価を得た作品です。

■喜びの声

このたび、栄誉ある富士フイルム営業写真コンテストにおいて銅賞を受賞することができ、大きな喜びと感謝の気持ちでいっぱいです。
これもひとえに、日頃より撮影を任せてくださるお客様をはじめ、支えてくれる家族やスタッフ、そしていつも素晴らしいプリントで作品を仕上げてくださるプロカラーラボ様のおかげと、心より感謝しております。

今回の作品は、成人を迎えられたお嬢様と愛犬とのロケーション撮影です。木陰から差し込む柔らかな自然光を生かしながら、動きのある中にも品を感じられる表現を心掛けました。二十歳という節目の美しさと、愛犬と過ごす自然な表情、その場に流れる空気感まで写し撮ることができ、自分らしい一枚になったと感じています。

日々撮影をする中で、自分やスタジオだけの満足になってはいないか、お客様一人ひとりに本当に喜んでいただける写真を届けられているかと、自問することがあります。そんな中、今回この作品で評価をいただけたことは大きな励みとなると同時に、賞に恥じない写真をこれからも撮り続けていきたいと、改めて身の引き締まる思いです。

若い世代の新しい感性にも刺激を受けながら、これからも十人十色のお客様の想いに寄り添い、一人ひとりに心から満足していただける写真を残せるよう、技術と感性を磨き続けてまいります。

そして何より、これまで写真の道を導いてくださった廣田庸二先生に、心より感謝申し上げます。
（制作ラボ：㈱プロカラーラボ）



銅賞



「にぎやかな登校」　　蓑田憲明　㈲フジ写真館（熊本）

■選評

大きな笑顔でワイワイ楽しそうに登校する３人が、まるで目の前に向かってくるような、躍動感あふれるスクールフォトです。動きのあるポージングでは、人物がバラけてしまうこともありますが、安定感を持ってまとめられている点が高評価につながりました。ローアングルで撮影しているため、「ほら、行くぞ！」「引っ張るなよ」「待ってよぉ！」なんて声が聞こえそうな動きと表情のある、躍動感がギュンと増した１枚に仕上がっています。また、生徒それぞれのアクションが違っていても、一人ひとりの顔にきれいに光が回っている点などにライティング技術の高さが見て取れます。子供たちの伸びやかなエネルギーを感じさせ、見る人を笑顔にする写真です。

■喜びの声

このたびは、栄誉ある富士フイルム営業写真コンテストにおいて、このような賞をいただき、誠にありがとうございます。

上位入賞の知らせは、令和８年熊本地震の被災地で支援物資を配布している最中、たくさんの先輩方から届いたお祝いの連絡で知りました。まずは、今回の地震で被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

今回の作品は、初めてご来店いただいた三兄弟を撮影したものです。出会った瞬間からと ても仲が良く、元気いっぱいな姿が印象的でした。その雰囲気をそのまま写真に残したい と思い、健康的で明るいライティングを選び、「三人で一緒に歩いてきて！」とだけ伝えてシャッターを切りました。

私が日頃から大切にしているのは、お客様一人ひとりに合った「環境と光」です。年齢や 家族構成、体調、性格などを感じ取りながら、背景、構図、光、ポージングを考えていま す。

写真を通して培った「相手を見て、その人に合った環境をつくる」という考え方は、日々の生活や会社経営にも生かされています。これからも写真を通して学び続け、たくさんの方に喜びや幸せを届けられるよう精進してまいります。

最後に、福森先生をはじめ、福森塾、写真師会、プロカラーラボ、そして日頃より支えてくださる業界関係者の全ての皆様に、心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

（制作ラボ:㈱プロカラーラボ　九州ラボ）

